

## お わ り に

### Conclusion

本調査報告書は愛媛県喜多郡内子町及びその周辺地域において、1991年9月から11月に行われた3回の植物社会学的植生調査及び1992年11月の補完調査に基づいて作成された。今回の調査では、四国地方の北西部に位置する内子町という地域の自然特性、特に植生生態的な地域特性を明らかにするために群落複合の概念による景観分析の方法に基づいた詳細な植生生態学的研究を行った。この結果、内子町は潜在自然植生域としては常緑広葉樹林（＝ヤブツバキクラス）域の内陸山地帯に位置すると共に、コガクウツギーモミ群集、ウラジログシ群落、シラカシ群集、カナメモチーコジイ群集、ホソバカナワラビースダジイ群集、ルリミノキーイチイガシ群集、イノデータブノキ群集、アブラチャンーホソバタブ群集、イロハモミジークエヤキ群集、ムクノキーエノキ群集などの主要な森林植生が本地域の植生生態系を構成するホソバタブーモミ群落団域に属していることが明らかにされた。さらに把握された植生単位に基づいて内子町に現存する自然及び代償植生の分布領域を明らかにした現存植生図や地域の潜在的な立地特性を自然植生で表した潜在自然植生図が作成された。

これらの内子町の緑の現状及び潜在的な立地特性に関する植生生態学的分析・評価等の研究成果は、将来における町の自然特性を生かしたまちづくりやまち起こしそして持続的な発展を目指した地域開発を行うための基礎資料となることが期待される。

## 参 考 文 献

## References

- 1) Braun - Blanquet, J. 1964: Pflanzensoziologie. Grundzüge der Vegetationskunde. 3. Aufl. 865 pp. Wien, New York.
- 2) 愛媛県(編) 1978: 特定植物群落調査報告書. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査. 155 pp. 東京.
- 3) 愛媛県(編) 1979: 植生調査報告書. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査. 92 pp. 松山.
- 4) Ellenberg, H. 1956: Grundlagen der Vegetationsgliederung. I. Teil: Aufgaben und Methoden der Vegetationskunde. 136 pp. Stuttgart.
- 5) 藤原一繪 1981: 日本の常緑広葉樹林の群落体系—I. 横国大環境研紀要, 7(1): 67—133. 横浜.
- 6) 林 弥栄 有用樹木図説(林木編). 472 pp. 誠文堂新光社. 東京.
- 7) 井手久登・武内和彦 1985: 自然立地の土地利用計画. 227 pp. 東京大学出版会. 東京.
- 8) 高知県(編) 1978: 特定植物群落調査報告書. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査. 176 pp. 東京.
- 9) 高知県(編) 1979: 植生調査報告書. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査. 83 pp. 高知.
- 10) 宮脇 昭 1970: 植物と人間—生物社会のバランス. 228 pp. 日本放送出版協会. 東京.
- 11) 宮脇 昭 1983: 緑の証言—滅びゆくものと生きのびるもの. 241 pp. 東京書籍. 東京.
- 12) 宮脇 昭 1991: 緑回復の処方箋—世界の植生からみた日本. 朝日新聞社. 東京.
- 13) 宮脇 昭(編) 1982: 日本植生誌 四国. 539 pp. 至文堂. 東京.
- 14) 宮脇 昭・奥田重俊・藤原一繪・佐々木寧・木村雅史・箕輪隆一・弦牧久仁子・村上雄秀・阿久津卓・山崎 惇 1980: 肱川上・中流域の植生. 129 pp. 横浜植生学会.
- 15) 大野啓一 1979: 西日本における沖積低地の河畔林に関する群落学的考察. 横浜植生学会報告. 16: 227-236. 横浜.
- 16) Ohno, K. 1981: Pflanzensoziologische Forschungen über die Schluchtwälder des Camellietea japonicae-Bereiches in Südwest-Japan. Hikobia Suppl. 1: 83-90.
- 17) 大野啓一 1990: 北海道(北部日本)における植生域の評価, 区分に関する植生生態学研究. 横国大環境研紀要, 16(2): 197-215.
- 18) Ohno, K. 1991: A vegetation-ecological approach to the classification and evaluation of potential natural vegetation of the Fagetea crenatae region in Tohoku (northern

- Honshu), Japan. Ecol. Res. 6: 29-49.
- 19) 大野啓一・宮脇 昭 1986: 本州中部山地帯の森林群落に関する植生地理学的研究. ヒコビア, 9: 417-429.
  - 20) Sasaki, Y. 1970: Versuch zur systematischen und geographischen Gliederung der japanischen Buchenwaldgesellschaften. Vegetatio, 18(3): 214-249.
  - 21) Schmithüsen, J. 1961: Allgemeine Vegetationsgeographie. 262 pp. Berlin (宮脇昭 (訳) 1968: シュミットヒューゼン植生地理学. 307 pp. 朝倉書店. 東京) 1968: 3. Aufl. 463 pp. Berlin.
  - 22) 森林立地懇話会 (編) 1972: 日本森林立地図. 農林出版. 東京.
  - 23) 鈴木時夫 1966: 日本の自然林の植物社会学体系の概観. 森林立地, 8(1): 1-12. 東京.
  - 24) 武内和彦 1991: 地域の生態学. 254 pp. 朝倉書店. 東京.
  - 25) Tüxen, R. 1956: Die heutige potentielle natürliche Vegetation als Gegenstand der Vegetationskartierung. Angew. Pflanzensoziologie, 13: 5-42. Stolzenau/Weser.
  - 26) 内子町 1990: 内子町勢要覧1990年版 資料編. 38 pp. 内子町.
  - 27) 山中二男 1952: 四国宇和島市の植物群落. 植物生態学会報, 2(4): 156-161.
  - 28) 山中二男 1954: 四国大野ヶ原・小田深山の植物群落. 植物生態学会報, 3(4): 143-152.
  - 29) 山中二男 1960: 四国地方の二次林植生. 特に愛媛県東部でのコナラ林についての観察高知大学教育研究報告, 12: 57-59. 高知.
  - 30) Yamanaka, T. 1961: *Abies firma* and *Tsuga sieboldii* forests in Shikoku (Forest climax-es in Shikoku, Japan 1). Res. Rep. Kochi Univ. (Nat. Sci. I) 10: 19-32. Kochi.
  - 31) 山中二男 1963: 四国地方の中間温帯林. 高知大学学術研究報告 (自然科学 I (3) 12: 17-25) 高知.
  - 32) 山中二男 1970: 南四国における二次林の研究. 高知大学学術研究報告, 18(1): 1-14. 高知.
  - 33) 山中二男 1970: 四国西南部の森林植生. 高知大学学術研究報告, 自然科学 3 (19): 17-42. 高知.
  - 34) 山中二男 1978: 高知県の植生と植物相. 461 pp. 林野弘済会高知支部. 高知.
  - 35) 山中二男 1979: 日本の森林植生. 216 pp. 築地書館. 東京.
  - 36) 山中二男 1981: 南四国における暖温帯の河辺林. Hikobia Suppl. 1: 257-264.

内 子 町 の 植 生  
—郷土の永続的な発展をめざして—

Vegetation of Uchiko-Cho  
—for the sustainable development of the hometown—

宮脇 昭・大野 啓一・藤原 一繪  
林 寿則・北山 雅弘・原田 洋

by

Akira MIYAWAKI, Keiichi OHNO,  
Kazue FUJIWARA, Hisanori HAYASHI,  
Masahiro KITAYAMA, Hiroshi HARADA

発 行 内子町役場企画調整課  
愛媛県喜多郡内子町大字内子甲780

印 刷 セ キ 株 式 会 社  
1993(平成5)年3月14日 印刷  
1993(平成5)年3月25日 発行